

荒川放水路工事と通水式

— 明治の大洪水から放水路ができるまで —



祝新荒川通水記念ゲート

明治 43 年の大洪水を契機に、東京の街を水害から守るため荒川放水路が開削されました。大正 13 年には放水路に水を通し、その記念の通水式が同年 10 月 12 日におこなわれました。放水路工事がどのようにおこなわれたのか、当時の写真や資料などをご紹介します。

平成 26 年

10月10日 金



11月30日 日



荒川放水路をご視察される摂政宮（のちの昭和天皇）

場所

荒川知水資料館 2階企画展示スペース
(〒115-0042 東京都北区志茂 5-41-1)

開館時間

9:30 ~ 17:00
(入館は閉館時間の 30 分前まで)

休館日

原則として毎週月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日

荒川知水資料館 URL

http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/arage_index007.html

お問い合わせ

荒川知水資料館

【電話】03-3902-2271

入館無料



〈アクセス〉
東京メトロ南北線「赤羽岩淵駅」より徒歩 15 分 / JR「赤羽駅」より徒歩 20 分
都営バス「志茂 2 丁目」より徒歩 10 分

1 荒川放水路工事を振り返る

明治43年の大洪水を契機に始まった「荒川放水路工事」は、岩淵に水門（赤水門）を造って本流を仕切り流れを変え、延長22km幅500mもの放水路を掘るという大規模なものでした。全体の施工には約20年の歳月を要し、昭和5年に完成しました。

放水路開削の経緯や、荒川放水路工事の様子を振り返ります。



明治43年の洪水時の様子

2 写真・新聞にみる「通水式典」

大正13年には岩淵水門（赤水門）が完成し、荒川放水路の上流から下流まで繋がり、通水しました。これを記念して同年10月12日に「新荒川通水式」が行われ、同月には摂政宮（のちの昭和天皇）が行啓されています。これらのことは写真や新聞記事で記録されています。

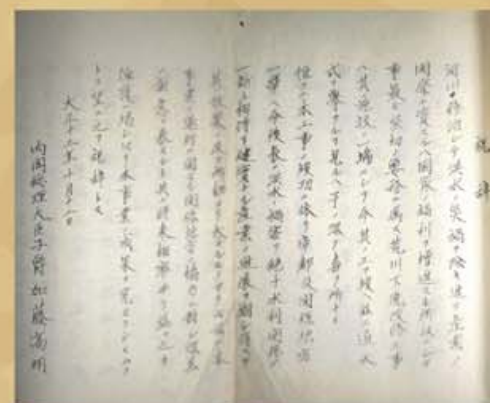
荒川放水路工事に関する写真を新聞記事と合わせて見ていきます。



岩淵水門に掲げられた日の丸（通水式）

3 資料にみる「通水式典」

「新荒川通水式」ではいったい何を行ったのか……。記録として残された資料には式次第や会場設営、祝辞などの書類や図面、会場までの交通機関の案内など、当時の通水式典の様子をご紹介します。



内閣総理大臣の祝辞原稿
(荒川知水資料館蔵)

荒川放水路工事の歩み

- 1910年（明治43） 水害を契機に荒川の改修工事計画が立てられる。
- 1911年（明治44） 放水路事業始まる。測量・調査・用地買収に着手。
- 1913年（大正2） 人や馬を使って高水敷を掘り始める。
- 1914年（大正3） 浚渫船を使って河口部分より低水路を掘り始める。
- 1916年（大正5） 岩淵水門起工。
- 1917年（大正6） 9月30日、記録的な高潮で船舶・機械流出損傷。
- 1918年（大正7） 新川水門、綾瀬水門起工。
- 1919年（大正8） 小名木川閘門・隅田水門起工。
- 1921年（大正10） 木下川、中川水門起工。綾瀬川通水。
- 1923年（大正12） 9月1日、関東大震災。28箇所で堤防が崩れたり、裂け目が入る。
- 1924年（大正13） 岩淵水門竣工。荒川放水路全川に水を通す。
10月25日、摂政宮荒川放水路行啓。
- 1930年（昭和5） 荒川放水路工事が完成する。



新荒川通水式関係書類綴
(荒川知水資料館蔵)